

2019

同友しずおか 8

VOL.489

私の逸品

(株)杉本商店

畳縁を利用した
オリジナル商品「縁」



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2

よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

●社長はいつも孤独

●経営の成功体験しか聞けない

●目の前の仕事に追われる毎日

●指示待ち社員ばかり

●経営の悩みを相談する仲間ができた

●失敗談から勇気とヒントをもらえた

●将来の会社のビジョンができた

●自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

2019年度 活動方針

◆企業づくり

- I. 経営指針を成文化し、すべての人が生きる企業をつくろう
- II. 経営者と社員が共に育つ企業風土を確立し、時代の変化に対応できる強靱な企業になろう

◆地域づくり・経営環境づくり

- I. 中小企業振興基本条例の学びを深め、地域づくりの推進役となろう
- II. 関係機関との連携を深め、経営者の声で経営環境を整えよう

◆同友会づくり

- I. 仲間づくりを推進し、1200名会勢を早期に実現しよう
- II. 真の経営課題に気づく学びあいにより、活力ある同友会をつくろう
- III. 同友会理念の学びを深め、実践で語れる会員を増やそう

新会員のご紹介（敬称略） 会員数 1084 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
いいづか ちひろ 飯塚 千尋	大和建設(株) 総合建設業（土木工事、公共土木工事、建築工事、一般木造住宅）	御殿場	立道 浩幸
あらき ようへい 荒木 洋平	荒木土地家屋調査士事務所 土地家屋調査士（土地・建物表題登記、土地・建物調査・測量）	沼津	高島 邦栄
おおはら かずあき 大原 一晃	丸晃プランニング 電気工事（一般電気工事）	静岡	久高 洋司
かふく ともひろ 加福 友博	(有)東洋音響 オルゴール製造業（木工、塗装、組立て）	静岡	西本 幸一
しだ かつゆき 志田 克之	(株)コリドール 建築設計、デザイン（店舗・住宅のデザイン）	静岡	岩崎 和之
ますだ なつこ 増田 奈津子	(有)マイアミライフ 飲食業（和食料理店）	静岡	三木 清夫
ふじ た たいぞう 藤田 泰三	(有)藤田興業 保険業、不動産業（生命保険販売、損害保険代理店業務、保険及び法人・財務相続・事業継承・相続に関する総合的なコンサルティング）	志太	吉田 和弘

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。



畳縁を利用したオリジナル商品「縁」

～100周年をお客様とともに歩む～

(株)杉本商店 (伊東支部)

常務取締役 杉本 高英氏



杉本 高英氏

地元密着の畳業

伊東駅から徒歩5分、猪戸通り商店街内を進むと「杉本商店」の大きな看板が見えてきます。会社は杉本高英氏の祖父（初代）が畳職人として歩みだし、今期で100年を迎えます。創業時は畳の工事業を主体に事業を行っていましたが、その後畳材卸業を併設、更には内装工事業を展開、現在ではリフォーム工事も手掛けています。一般住宅はもちろん、伊東の土地柄もあり旅館やお寺など地元に着したお客様が多いそうです。近年はホテル・旅館のM&Aで経営者が変わることが多く、その影響で取引が減ることもある一方、逆に新しく受注が入ることもあるそうです。

畳縁を利用したオリジナル商品「縁（えん）」シリーズ

同社では畳の縁を使ったポーチやカードケースなどのオリジナルグッズを手作りで製作し販売しています。畳の縁といっても現在は数多くのバリエーションがあり、お店には畳らしい和柄からポップな花柄のものまで多様な商品が並んでいます。主に杉本氏のお母様が手作りしており、お客様のニーズに合った物を作ることができるのが強み

です。杉本氏は「オリジナルグッズの販売を通して、畳の多様性をお客様に提供していきたい」と話してくれました。

技術を継承するために

現在社員の平均年齢は約50歳。高齢化と人材不足が課題だと言います。会社の財務状況を整理把握し、オリンピックが終わった2、3年先を見据えた経営環境を作らなくてはなりません。ベテラン職人の技術を若い人材に継承していきたいという想いですが、現状は技術をしっかりと教える時間を確保することが難しいそうです。しかしトップが軸をしっかり持ち、現状に甘えず先を見据えた判断をしていくことが必要だと杉本氏は語ります。今後は古くなった機械を新しく整えるために設備投資を行い、人材採用・教育にも投資を

していきたいと考えており、そのためにまず財務状況を改善し、強い経営体質を作っていきたいと話してくれました。

「当たり前」を大切に

これは日常生活の基本であり、杉本氏が社員教育で大切にしていることです。相手が気付くあいさつをする、靴を脱いだら揃える、など礼儀として「当たり前」のことを社員一人ひとりが意識し、全社一丸となって取り組んでいます。仕事だけでなく、プライベートでもこれらを徹底することで本当の意味での「当たり前」になると杉本氏は言います。「お客様の前で仕事をする時の心がけが身につけば、今度は家に上がったときに他の人の靴も揃えられるようになる。このように当たり前前のレベルを上げていきたい」と語る杉本氏。もう一つ大切にしているのが、茶の湯の「主客一体」の精神です。招く側の主人と招かれる側のお客様がお互いに協力し、一体となつて良い空間をつくりあげるとい意味です。この主客一体の心は茶道に限らず通常の人間関係・日々の業務にも相通じるものであり、相手の立場（顧客・社員）に立って考えを共有することが、これからの営業活動や経営に必要な考え



取材風景



畳のゴザを利用した草履

(株)杉本商店

〒414-0003 伊東市中央町9-17

TEL : 0557-37-2566

URL : <http://sugimotoshouten.com/>

創業 1919年

社員数 正17名 パート2名

入会年月 2014年6月

事業内容 畳業、内装仕上り工事

の一つにもなると杉本氏は話します。お客様の家に上がることが多い職業だからこそ、きめ細やかな心遣いを大切に行っていることが伝わってきました。

取材・記事：鈴木将大氏

(南東亜電気工業・伊東支部)

会員訪問記

オフィスとしての「みしま未来研究所」

(株)集客デザイン研究所
代表取締役 所長 増田 隼人氏 (三島支部)



増田 隼人氏 (中央)

(株)集客デザイン研究所の増田隼人氏は、少子高齢化が進む三島市にかつて存在し、廃園になった幼稚園を改装してつくられた「みしま未来研究所」にオフィスを構え、プロモーションコンサルティングなどの活動を行っています。

今の自分に繋がる強い思い

高校卒業後、東京のシステム工

ンジニア会社に就職し、営業で全国を飛び回っていた増田氏。地方に行った際、どんどん冷え込んでいく町に驚き、自分の生まれ育った町も何もしなければこうなるのかと不安になったそう。この時の体験が今の事業への思いにつながっています。事業の目的は地方経済を活性化すること、そして魅力あるまちづくりとPR活動の実践だと明確に語ってくれました。

独立するもジレンマの日々

増田氏は一抹の不安を抱きながら敢えて静岡にUターン就職し、地元の若者と交流を深めていくうちに、自分のやりたいことが膨らんで独立に至ったそうです。地方経済の活性化を人生のミッションにして事業を立ち上げたものの地方はそんなに甘くなく、ネットワークはあるのに収入に繋がらないジレンマとの格闘の日々が続きました。

同友会との出会い

三島の様々な団体に所属して自身をPRしていた中、先輩の勧めで同友会に入会した増田氏は、明らかに経営を伸ばしています。「同じ悩みを抱えている経営者の話を聞き、先輩の話を聞いているうちに点と点が線になり、自分の進むべき道がわかってきた気がする。入会を勧めてくれた先輩、そして応援してくださる同友会の皆



みしま未来研究所内のワーキングスペース

みしま未来研究所とは

増田氏がオフィスを構える「みしま未来研究所」では、クリエイターなど現在20名ほどの方が利用しています。打合せ室や会議室などの充実した施設もあり、「おはようございます」から「お先に失礼します」などの会話もあるので「カフェで仕事をしているのとは違い、同じ会社の中で仕事をしているような不思議な空間だと言います。また、同所には一般の方も利用できるカフェもあり、みしま未来研究所を運営する「NPO法人みしまびと」のメンバーがボランティアで運営しています。



みしま未来研究所「みんなの広場」にて

今後のビジョン

増田氏は「今は目の前にあることをひたすらこなしていくのみだが、同じ思いが共有できる仲間を増やし、お客様の困り事をもっともっと解決したい」との想いを語ってくれました。クリエイターのような個人で事業をしていく事業体が増えていく中で、彼らの困りごとを満たしてくれているのが、みしま未来研究所ではないでしょうか。皆さんもここに来て、何とも言えない、ゆったりとした空間をぜひ味わってみてください。

(株)集客デザイン研究所

〒411-0858 三島市中央町6-2

みしま未来研究所内

TEL : 080-6559-8136

創業 2015年

入会年月 2017年 8月

事業内容 WEBサイト・映像制作、イベントセミナー企画・運営、補助金・助成金支援

取材・記事：山下 直毅氏
(株)サンアイ電工・三島支部

取材：秋山 敦氏
(株)秋山建設・三島支部

「本質に迫れ！変革に挑め！」 ～人を生かす経営が企業の未来を拓く～

経営者としての決意と実践

～環境の激変が理念を磨く～

日本ジャバラ(株) 代表取締役(兵庫同友会)

田中 信吾氏



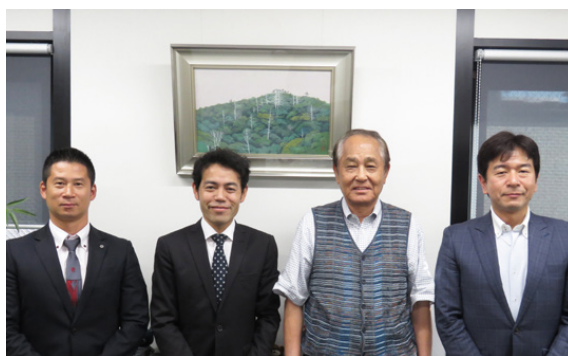
田中 信吾氏

会社紹介

兵庫駅から徒歩約10分、閑静な住宅街に日本ジャバラ(株)の本社があります。1957年に国内で最初の工作機械用国産ジャバラを製造した会社です。現在では、工業機械から建築、医療、アミューズメント業界など、幅広い業界で使用され、国内外で製造・販売をしています。兵庫県に本社と製造工場、愛知県・東京都に営業所を、国外では中国に生産拠点を構えています。社員数は国内125名、国外120名の従業員が働いています。

組織づくりに向け 経営指針書を作成

田中氏が会社を継いだのは1984年。現在、従業員は約250名、地元の若い人の就職希望も多いのですが、承継当時は約60名だったそうです。組織づくりに向け社内では月に1度の勉強会をはじめ、経営指針書の作成にも取り組みました。平成元年、指針書を自身で作成し社内で発表しました。しかし、発表しただけでは社内になかなか浸透し



田中 信吾氏(右から2人目)

せんでした。そこで、田中氏から指針書を浸透させるための社内での取り組みを聞くことができました。☆フォーラム当日にぜひお聞きください！

物事に対する「見方」を意識し、 学びを自社で実践

「経営指針書を浸透させるにもただ伝えれば良いわけではない。『浸透させる』という意味をどう捉えるかが重要」と語る田中氏。兵庫同友会で代表理事を務めていた時には、理事がお互いの経営状況を話し合い、学びを深めたそうです。その際、同じテーマを考えても規模によって捉え方が変わります。同友会には規模・業種様々な経営者が参加しています。多方面からの捉え方を考えることが「見方」に繋がります。同友会では企業発展に向け、様々なキー

ワードがあります。田中氏からは「理念の浸透とはどういうことだと思えますか」と訪問した会員へ投げかけもありました。田中氏は「経営の本質は、思いと数字と覚悟」と語ります。約30年を振り返りながらお話ししたことは、経験と人生哲学に溢れた内容ばかりです。ぜひフォーラムにご参加頂き、田中氏の人生に触れ、未来に向けた企業づくりを学び合いたいです！

日本ジャバラ(株)

業種	各種機械用ジャバラの製造・販売
社員数	国内125名 海外120名
創立	1957年
資本金	4,000万円



会場でお待ちしています！

「同友会発祥の地」東京で中同協第51回定時総会を開催！

7月4日(木)・5日(金) 京王プラザホテル



のメッセージが紹介されました。その後の全体会で議案や予算などが提案され、続いて「働き方改革」や「エネルギーシフト」、「事業承継」などをテーマに分科会が行われました。3つの見学分科会を含む全19分科会に分かれ、互いの経営実践を交えながら議論しました。分科会後は50周年祝賀会が行われ、会歴50年の会員紹介やステージパフォーマンスなど、歴史を振り返り、皆で祝う時間となりました。

2日目の全体会では議案、予算が採択され、続いて「日本の未来を創造する『主役』として」と題した総会宣言が読み上げられ、満場一致で採択されました。中同協設立50周年式典では小池百合子東京都知事と関芳弘経済産業副大臣の挨拶の後、記念企画と記念講演が行われました。

記念企画「中同協設立50周年」持続可能な日本経済と同友会運動の将来展望」

7月4～5日、中同協第51回定時総会が京王プラザホテルにて開催され、全国1762名、静岡から50名が参加しました。中同協設立50周年記念の本総会は「同友会理念の総合実践で持続可能な未来を築こう」をスローガンに、全体会や分科会、記念企画が行われました。

1日目は、東京同友会相談役の湯本良一氏、中同協会長の広浜泰久氏の挨拶の後、安倍晋三内閣総理大臣をはじめ、各界から

記念企画では会内外から4名が登壇。はじめに広浜中同協会長は「今年新たに作成した10年ビジョンでは、同友会理念の先見性と普遍性に確信を持ち、世界に向けて発信することを含めている」と伝えました。そして、先人たちが同友会の3つの目的や労使見解を創り、実践してきたことを振り返り、我々一人ひとりが理念を体現していく自覚を持ち、協力、連携して目標達成をめざそうと呼びかけました。

続いて蓮井智哉内閣府地方創生推進室参

事官は、中小企業憲章にも書かれている通り中小企業は「社会の主役」である、と述べ、地方創生の側面から日本経済を支える中小企業と同友会への期待を語りました。

山田美和日本貿易振興機構アジア経済研究所新領域研究センター法・制度研究グループ長は、同友会の人を生かす経営（労使見解）の原点や働く環境づくりの手引きの実践は、SDGsの目標8に含まれる「ビジネスと人権」でめざしているものに繋がると語ります。そして、実際に海外の方にも紹介しているそう、労使見解の教えを「グリーンブック」など、海外でも親しまれる名前前で発信していこうと呼び掛けました。

植田浩史中同協企業環境研究センター副座長は25年に渡る同友会との関わりのなかで「同友会は自立的・自律的な運動によって中小企業を育ててきた」と報告しました。その上で、「青い鳥」に例え、「同友会は自らの近くにある宝の山に気づけるかどうかである」と語りました。

記念講演「同友会は経営者の宝島」

橋本久美子氏（株吉村／東京同友会）

橋本氏の報告は「どんなことでも目的と目標も持つて行う」とのメッセージから始まりました。橋本氏は茶葉の梱包を行う企業の3代目として先代の父親から継承して以来、13年間同友会で学び実践してきました。「想いを包み、未来を創造するパート

ナーを目指します」を理念に掲げ、静岡県焼津市の自社工場でデザインから印刷、出荷まで行う一貫生産設備を強みに突き進んでいます。

東日本大震災後に静岡茶からもセシウムが検出されると、お茶の仕事は激減。それでも、社員との衝突を乗り越え、理念の下で社員と共に歩む会社として再スタートします。すると、お茶を買ってもらうために、社員からさまざまなアイデアが出て、理念を共通認識とすることの大切さが改めて気づきます。失敗や苦手も見方や考え方を変えれば、強みにできること。そして同友会はその視野を広げる場であったと橋本氏は言います。困難にぶつかっても、諦めず、取引先、社員、お客様と向き合い、理念を基に乗り越える経営者の強さと、社員との信頼関係が構築されていることが強く感じられました。



橋本 久美子氏

（次ページでは4つの分科会の参加者から感想をいただいたので、ご紹介します。）

参加者からの感想

第2分科会 同友会の歴史と理念に学び 未来をひらく

報告者 広浜 泰久氏 (㈱ヒロハマ代表取締役会長／中同協会長)



知久正博氏 (南知久太田会計事務所・榛南支部)

第3分科会 「労使見解」の今日的意義と 「働き方改革」 今こそ「働く環境づくりの手引き」の活用を

報告者 山田 茂氏 (㈱山田製作所代表取締役社長／大阪同友会)
青木 義彦氏 (㈱サンテック代表取締役／愛知同友会)



阿久澤 太郎氏 (㈱東海製蠟・富士宮支部)

第5分科会 地域の人材育成を 中小企業が担う 産学連携で地域の未来を考える

報告者 合田 哲雄氏 (文部科学省初等中等教育局財務課長)
梶谷 俊介氏 (岡山トヨタ自動車㈱代表取締役社長／中同協社員教育委員長・岡山同友会)
小田 大輔氏 (南小田商店代表取締役／徳島同友会)
佐々木 喜興氏 (㈱シーキューブソフト代表取締役／中同協社員教育副委員長)



梶川 久美子氏 (サツマ電機㈱・沼津支部)

第12分科会 仲間づくりは誰のため？ 増と強で、強い組織づくりを！

報告者 原田 良太氏 (社会福祉法人宮共生会理事長／長崎同友会)
村上 敦子氏 (㈱村上彫刻専務取締役／長崎同友会)



宮本 浩氏 (大栄工業㈱・志太支部)

共同求人・社員教育がテーマの第5分科会では4名のパネラーによるパネルディスカッション形式でした。冒頭、文科省の方から学習指導要領が2017年に改定された話からスタートし、社員採用や社員教育の話をお聞かせいただき、学校での先生も学校を運営している一人であり、校長先生も学校を運営している一人であり、それぞれリーダーシップを発揮する必要があることと、1対多に対する働きかけが必須で経営者と非常に近いことを知りました。そしてパネルディスカッションの中では、都市部へ人が出て行ってしまう現状から如何に人材を地域に残していくかという課題に対して、地域の将来の担い手を育てるために企業(同友会)として学校教育にどう関わっているかという実践報告がありました。社員が育つ環境を創るのは経営者の仕事として自覚していましたが、社員になる可能性がある地域の子どもたちが育つ環境を、学校や行政と協働しながら創っていくことの大切さに気づき、視野を広げることができた分科会でした。

私はこれまでの全国大会では、いわゆる「わが経営を語る」が中心の内容で、自社に直接フィードバックするための分科会を選んで参加してきました。しかし、今回初めて組織増強というテーマの分科会に申し込んだのは、自分自身が生まれ育った土地でもあり、2017年度には36名増で全国1位の純増数に輝いた佐世保支部のお二人のお話をどうしても聞いてみたいという想いからでした。テーマにある「増と強で、強い組織づくりを！」そして課題から見えてきた「顔の見える支部活動」とは…。それはただ数を追うのではなく本心に楽しい仲間づくりからこの結果が生まれたことに衝撃を受けました。

今回の報告者である村上氏も、入会当初は全く組織増強には興味がない状態でしたが、同友会の先輩との出会いで一気に変わります。「いい会社が増えれば自然と自社とのつながりが増え会社利益につながる。そして、ただいいものはしっかりと違う人に返さないとけない。そのために増強は必要なんだよ。」その一言から始まったそうです。それから、夜間は出席できない会員やオブザーバーを集めて、月1回開かれるビジネスランチを提案。これによって飲食関係の方々や多くの女性の経営者が参加して大いに盛況となりました。その他にも数多くの仕掛けをおこない、多くの会員増につながったとのこと。そして最後に、仲間づくりと支部活動は両輪であり、同じスピードで進めていくことが大切であると訴えた原田氏。私は同友会の組織増強とは、そのまま自社がよくなるための活動であることを改めて認識し、これからの自社の経営と同友会活動を両輪で進めていかなければと強く感じました。

今回の報告者である村上氏も、入会当初は全く組織増強には興味がない状態でしたが、同友会の先輩との出会いで一気に変わります。「いい会社が増えれば自然と自社とのつながりが増え会社利益につながる。そして、ただいいものはしっかりと違う人に返さないとけない。そのために増強は必要なんだよ。」その一言から始まったそうです。それから、夜間は出席できない会員やオブザーバーを集めて、月1回開かれるビジネスランチを提案。これによって飲食関係の方々や多くの女性の経営者が参加して大いに盛況となりました。その他にも数多くの仕掛けをおこない、多くの会員増につながったとのこと。そして最後に、仲間づくりと支部活動は両輪であり、同じスピードで進めていくことが大切であると訴えた原田氏。私は同友会の組織増強とは、そのまま自社がよくなるための活動であることを改めて認識し、これからの自社の経営と同友会活動を両輪で進めていかなければと強く感じました。

8月・9月

DOYU CALENDAR

8月16日(金)～9月15日(日)

8月 19日(月)	県組織増強委員会 (19:00 同友会事務局)
20日(火)	沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ) 浜松例会 (19:00 ザザシティ中央館) 県広報情報化委員会 (19:00 同友会事務局)
22日(木)	中同協・会員増強決起集会 (13:00 TKPガーデンシティPREMIUM田町) 中遠納涼例会 (19:00 掛川グランドホテル) 富士例会 (19:00 富士交流センター)
23日(金)	榛南例会 (19:00 きてご榛原) 会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会と私～」 (19:00 同友会事務局)
24日(土)	共学ゼミ (14:00 かまくら文庫)
26日(月)	第16期経営指針を創る会⑥ (19:00 同友会事務局)
27日(火)	県政策委員会 (19:00 同友会事務局)
28日(水)	県理事会 (17:00 同友会事務局) 県障がい者問題委員会 (19:00 同友会事務局) 県例会企画委員会 (19:00 同友会事務局)

29日(木)～ 30日(金)	中同協・経営労働全国交流会in岩手 (13:00 ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING)
30日(金)	伊東納涼例会 (19:00 NANKURU)
9月 6日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川 バイパス店)
8日(日)	富士支部 同友会まつり (富士中央公園)
10日(火)	静岡例会 (19:00 静岡ペガサート)
11日(水)	御殿場例会 (19:00 エピスクエア) 第16期経営指針を創る会⑦ (19:00 同友会事務局) 正副代表理事会 (17:00 同友会事務局)
12日(木)～ 13日(金)	中同協・青年経営者全国交流会in熊本 (13:00 ホテル日航熊本他)



《あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください》

障がい者問題委員会 東部関係機関との意見交換会を開催



7月19日(金) プラサヴェルデ 参加：35名

7月19日(金)に沼津市のプラサヴェルデにて、障がい者問題委員会 東部関係機関との意見交換会を開催しました。東部地区の会員や委員会メンバー、特別支援学校教諭や関係機関の方など計35名もの参加者が集い、障がい者雇用や定着に対する課題を話し合いました。障がい者雇用にあたっては、早期離職を防ぎ定着に繋げるために、学校・企業・支援機関(障害者就業・生活支援センターやジョブコーチなど)が連携をとり、定期的に連絡・訪問しながら就業者をサポートする姿勢が重要であると共有されました。多くの気づきを得ることの出来た有意義な意見交換会となりました。



故 片平 毅 氏
(株)ティーケーシステム・富士支部
1945年8月7日生(満74歳)
2012年9月入会

故 片平 毅さんを偲んで

7月1日、(株)ティーケーシステム 代表取締役の片平毅氏が逝去されました。片平氏は入会当初から「こんなに学べる良い会には無い」とおっしゃり、熱心に学び積極的に同友会運動へ参加しておられました。私が富士支部長の時は、組織増強委員長を引き受けていただき御尽力いただきました。病気がわかった時も「まだまだやりたい事が沢山ある。病気に勝ち必ず治して復帰します」と、力強く宣言していました。常に笑顔を絶やさず前向きで義を重んじ自分の立ち位置を理解し人に優しいとても尊敬できる先輩経営者でした。

支部を代表して心からご冥福をお祈りいたします。

大竹 政彦氏 (南富士清掃センター・富士支部)



静岡同友会
Facebookページ



静岡同友会Facebookページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください！

発行所：静岡県中小企業家同友会 doyu@szdoyu.gr.jp / 編集者：県広報情報化委員会

〒420-0857 静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル6階 TEL:054-253-6130(代表) FAX:054-255-7620 <http://www.szdoyu.gr.jp>